

旧広島陸軍被服支廠の活用を考えるワークショップ

【大規模ワークショップ結果報告（2022年6月発行）】

日時：2022年4月17日（日）14:00～16:00
場所：広島県健康福祉センター大研修室・Zoom
オンライン
参加者：98名

大規模ワークショップとは？

被服支廠の利活用に向けた意見やアイデアを幅広く聴取するために実施しました！

旧広島陸軍被服支廠の活用に向けた意見やアイデアを幅広くお聞きすることを目的に実施しました。当日は、現地とオンライン合わせて98名もの方にご参加いただきました。

意見やアイデアを幅広くお聞きする場としては、大規模ワークショップと並行して、ワークショップ（50人規模）を開催しています。

今回の結果は、ワークショップの結果と併せて、被服支廠の活用の方向性の検討に活かしていきます。

こんな内容でした！

被服支廠の活用にあたって大切にしたい考え方から、具体的な活用アイデアまで、多様な意見をいただきました！

大規模ワークショップは現地・オンラインを併用し、計12のグループに分かれて実施しました。活用にあたっての意見やアイデアを付箋やチャットに書き込んでいただき、ファシリテーター（進行役）が中心となって、意見を取りまとめていきました。

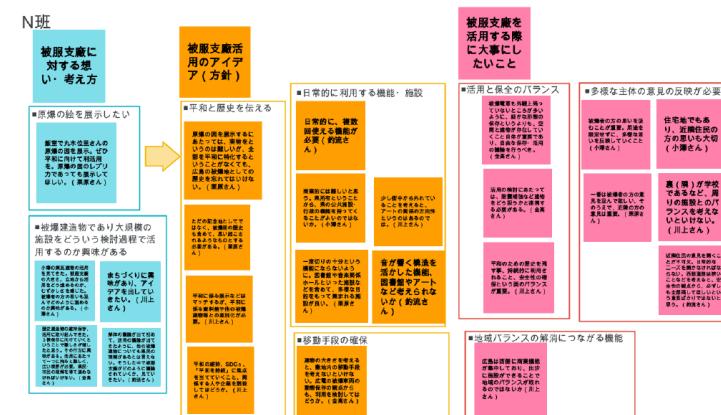
活用にあたって大切にしたい考え方や理念、解決すべき課題、活用の方向性、具体的な活用アイデアまで、多様な意見を出していただきました。



▲大規模ワークショップの様子



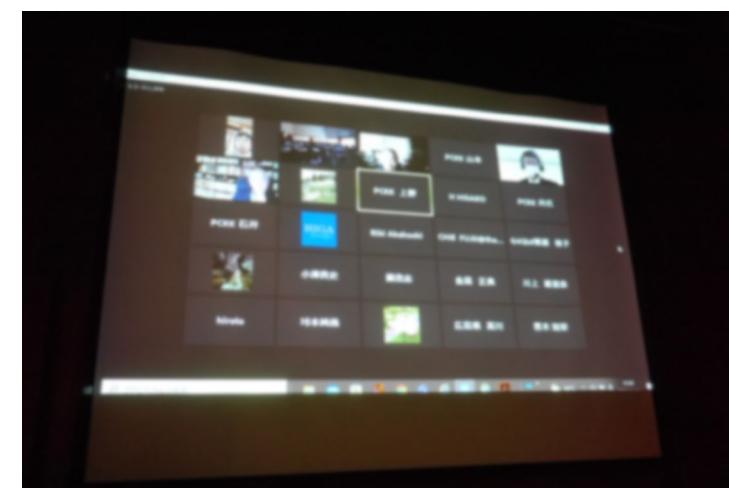
▲ワークシート



▲ワークシート（オンライン）



▲成果発表の様子



▲成果発表の様子（オンライン）



県民が集う場

～日常的に憩い、集える空間として使うことができる～

- ・ 図書館（近代史に特化，未来につなぐ子ども図書館…）
- ・ 公共施設（行政施設，市民会館，病院，免許センター…）
- ・ コミュニティ・イベントスペース
- ・ コワーキングスペース，シェアオフィス，貸会議室
- ・ 未来の人たちが活用を考えられるフリースペース
- ・ フリーマーケット（SDGs対応）
- ・ 海外からの来訪者と県民が交流できる場所
- ・ 子どもの遊び場
- ・ Eスポーツ施設



創造の場

～多様な価値観で創作・表現活動ができる～

- ・ リサーチャー・アーティストinレジデンス
- ・ 大型工作物を製作できる芸術創作施設
- ・ 大空間を活かした撮影，ロケ
- ・ 演劇・朗読，音楽活動，表現活動の場
- ・ モノづくりの場（産・学・民で活用できるスタジオ，アトリエ）
- ・ ベンチャー企業の拠点
- ・ 研究所，ITラボ
- ・ 教育・研究の場，大学との連携（近代建築物の技術研究，平和教育）
- ・ 着物工場（軍服生産の歴史から）
- ・ 衣類の生産と国際援助，難民支援



学び・発信の場

～平和・広島（被服支廠）の歴史を学び，継承し，世界に伝えることができる～

- ・ 文学館
- ・ 博物館・資料館（近代史（軍都としての発展）・戦後復興を伝える，原爆第二資料館，広島の日系移民を知る拠点）
- ・ 世界の戦争・紛争の博物館
- ・ 自然史博物館
- ・ 被爆証言，原爆関連映画の上映
- ・ アートの展示，ギャラリー（戦争や原爆に関するもの含む）
- ・ シアター（映画館）
- ・ 収蔵施設，市民の資料を集めたアーカイブ
- ・ 着物の伝統やアパレルの発信（軍服生産の歴史から）
- ・ 広島伝統文化の発信（神楽など）
- ・ 子どもたちの職業体験の場（キッズニア等）



おもてなしの場

～広島を訪れた人をもてなすことができる～

- ・ カフェ・レストラン・雑貨屋・ギャラリーなどの複合施設
- ・ 宿泊施設，ホテル（国際会議用・バックパッカー用）
- ・ ユースホステル・合宿施設
- ・ 各地域の食が楽しめる行列のできるレストラン・ギャラリー
- ・ 当時の食事の体験
- ・ オープンカフェ
- ・ 物産市場（広島食を楽しむ）
- ・ ミュージアムショップ
- ・ 音楽ホール（被爆ピアノなど）
- ・ 小劇場

大規模ワークショップでの意見・アイデアのまとめ【活用し続けるために必要なこと】

変化し続ける

～時代の変化に合わせた活用を続けていく～

- ・ 1棟は活用せず、未来の人たちに活用を考える余地を残す
- ・ 用途を限定せずみんなで使いたくなるような、使い続けながら時代の変化に対応できるような使い方
- ・ 5年、10年単位で新しい活用アイデアが更新されていく運営の仕組み

支えるひと・体制をつくる

～活用方法に応じた多様な主体の参画，関与の仕組みをつくる～

- ・ 引き続き，県民が参加しながら活用を考えていく場が重要
- ・ 現時点で決めないで，時間をかけていろいろな人に今後活用を考えてもらう
- ・ 多様な主体の意見を反映する

100年後も活かしていく

- ・ サステナビリティ（保存はゴールでなくスタート，持続可能な活用法，一人が何回も行きたくなる工夫）
- ・ SDGsへの対応
- ・ 誰でも行ける気さくな場所，市民に溶け込んで日常的に使われる場所

歴史と平和の大切さを伝えていく

- ・ メッセージ性を持つ（平和軸として，被爆経験，遺族の気持ちを大切に）
- ・ 次世代に被爆前も含めた近代の文化・歴史を伝えていく

協働で取り組む

～官民が手を携えて共に保存・活用を続けていく～

- ・ 平和公園や周辺市町（呉市など）との連携，周辺環境（住宅地）とともに考える
- ・ 産学官が一緒に保存・活用を検討していく

価値を知ってもらう

～被服支廠が県民の宝であることを広く共有していく～

- ・ 多様な人が使えるようにする
- ・ 人に来てもらうため，広島県にないものを作る
- ・ 交通アクセスの改善（駐車場の確保，バス・レンタサイクル等）

被服支廠の価値を継承していく

- ・ 建築物として大切にしたい，大きな改修はしない
- ・ 建物の大きさ・広さを感じられるような活用
- ・ 多くの若者・子どもに来てほしい

その他

- ・ 周辺地域との調和，近隣住民の声・安全性を大切にする
- ・ 採算を生み出す場所と，そうでない場所を分けて考える

